

(略)

新美南吉にいみなんきち

ちようど文六ちゃんぶんろくが、新しい下駄げたをはいたときに、腰こしの
まがったお婆さんばあが下駄屋さんげたやにはいつて来きました。そして
お婆さんばあはふとこんなことをいうのでした。

「やれやれ、どこの子こだか知らんが、晩ばんげに新あたしい下駄げたをお
ろすと狐きつねがつくといいうだに」

子供達こどもたちはびっくりしてお婆さんばあの顔かおを見みました。

「嘘うそだい、そんなこと」

とやがて義則君よしのりくんがいました。

「迷信めいしんだ」

とほかの一人ひとりがいました。

それでも子供達こどもたちの顔かおには何か心配しんぱいな色いろがただよっていまし
た。

「ようし、そいじゃ、小母さんおぼがまじないしてやろう」

と、下駄屋げたやの小母さんおぼが口軽くちがるくいいました。

小母さんおぼは、マッチを一本いっぴんするまねして、文六ちゃんぶんろくの新あたし
い下駄げたのうらに、ちよつと触さわりました。

「さあ、これでよし。これでもう、狐きつねも狸たぬきもつきやしん」

そこで子供達こどもたちは下駄屋さんげたやを出だしました。